



ARTCOURT Gallery
Yagi Art Management, Inc.

OAP ARTCOURT 1F 1-8-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN

「村上三郎 展」プレスリリース1

村上三郎 展 Saburo Murakami



村上三郎が約半世紀にわたる美術家としての活動のなかで生み出した作品は、その素材、形態において実に多様ですが、そこには、世界との関係の中で織り成される自らの生の在り様を捉えようとする姿勢が貫かれています。村上にはインスタレーション型の作品やコンセプチュアルな作品とともに、多くの絵画作品を制作しましたが、作家にとっては絵画もまた、「生きること」に向き合い、その一瞬一瞬を掴みとるための手段だったと考えられます。

1950年代半ば、具体美術協会への参加からほどなくして発表された村上の代表作、木枠に張ったクラフト紙を突き破る〈紙破り〉は、しばしばパフォーマンスの先駆けとして位置づけられますが、同時にそれは、画面の破壊そのものを作品として提示することで、絵画を形成する様々な既存の枠組みを解体し、その先に立ち現われる絵画の本質を追求しようとする試みでもありました。本展は、〈紙破り〉に続いて絵画の構造を根本的に問い直した最初期の作品《あらゆる風景》と、この度新たに発見、修復され、約50年ぶりの公開となる作品を含め、1958年から70年代後半にかけて制作された絵画7点を中心に構成されます。

縦横無尽に積層する烈しい筆致が、生々しく刻印された作家の身体性を感じさせる1958～60年代初頭の作品。そのストロークを押さえ込むように木枠を貼り付け、作家がイメージと自身の関係性を探り直そうとしているかのような60年代中期の作品。60年代終盤の作品では、逝るようなストロークは消え、カンヴァスに貼り付けた紙の縁をなぞることで半自動的に描き出された線のイメージが浮遊し、さらに、その後約10年を経て制作された《三位一体》(1978)は、物質としての絵具と作家の身体、観念とが過不足なく一致したかのような強度と静謐さに満ちています。

村上が求めたのは、思考と行為、時間と空間が渾然一体となった具体的な「現象」としての絵画、そして、「生きている」という十全な実感を与えてくれる「経験」としての絵画であり、それは構成的な意識に縛られることのない、無為の創造行為によってのみ実現され得るものでした。本展に出品される一連の作品には、そのような絵画表現を追求するなかで、刻一刻と変化する自己の存在と世界の在り様に率直に反応し、ときに軽やかに、ときに悩みながら、その都度最適な方法を選び取り、表現を展開した作家のしなやかな生の痕跡を見ることが出来ます。

1956年の野外具体美術展で発表された《あらゆる風景》は、木の枝から吊るされた額縁を通して偶然に切り取られる風景を觀賞するというものでした。一見、絵画作品の対極にあるような表現ですが、刻々と移り変わる状況の一コマ一コマを際立たせ、鑑賞者とその周囲の世界の関係を流動的で濃密な交渉の場へと転換する仕掛けには、絵画を通して村上が追求した、生きることと表現についての思想や態度が、より直接的な身振りで示されているように思われます。

私たちそれぞれの生が、自らの存在を基盤に外界との様々な接触を通じて紡ぎ出されていくものであるとすれば、村上にとって表現することは、まさに「生きること」そのものであったといえるでしょう。そうした表現行為から生み出された絵画作品と《あらゆる風景》。対照的な形態でありながらネガとポジのように関連し合う表現を通して、一定の形式に拘泥することなく、絵画＝生の本質に果敢に迫ろうとした作家の軌跡をご紹介します。

《作品》 / 1965年 / 137.9 x 431.0 cm / 合成樹脂塗料、石膏、接着剤、ミクストメディア、綿布、板 / 第16回具体美術展(1965年、京王百貨店、東京) 出品作

【展覧会概要】

観覧先： 村上三郎 展 / Saburo Murakami

会 期： 2014年3月7日(金)～3月29日(土) ※日・月・祝 休廊 / 開廊時間： 11:00 ～ 19:00 (土曜日 ～17:00)

会 場： アートコートギャラリー [〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F]

▶トークイベント： 3月8日(土) 14:00～15:30 中辻悦子氏(美術家) × 河崎晃一氏(甲南女子大学教授、インディペンデント・キュレーター)

▶レセプション： // 15:30～17:00

作品集『Murakami Saburō: Through the '70s』

村上三郎による1970年代の活動を詳しく紹介。さらに70年代の表現を糸口として、最初期から具体時代にかけての代表作を通観した作品集。

会場にて販売します。 ■2013年1月発行 / 発行元：アートコートギャラリー / 発売元：青幻舎 / 価格：2,800円 +税

主催：アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント) | 協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、株式会社三菱地所プロパティマネジメント

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [八木・清澤] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋 1-8-5 OAP アートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com URL:www.artcourtgallery.com

村上三郎

Saburo Murakami

- 1925 (大正 14) 神戸市に生まれる。[6月 27 日]
- 1943 (昭和 18) 関西学院大学予科に入学。絵画部「弦月会」に入る。
神原浩に師事、油絵を始める。
- 1948 (昭和 23) 関西学院大学文学部哲学科 (旧制) を卒業。
- 1949 (昭和 24) 伊藤継郎に師事。
- 1951 (昭和 26) 関西学院大学大学院 (旧制) で美学を専攻。
- 1952 (昭和 27) 第 5 回芦屋市展 (仏教会館、芦屋) '94 年の第 47 回展まで毎回参加する。
この頃、金山明、白髪一雄、田中敦子ら新制作派協会における先鋭的メンバーによるグループ「O会」に参加。
- 1953 (昭和 28) 村上彦 白髪一雄 二人展 (阪急百貨店洋画廊、大阪)
―― 会場で吉原治良と初めて出会う。*「村上彦」は当時使用していたペンネーム。
- 1954 (昭和 29) O 会展 (そごう百貨店ショーウィンドー、大阪)
- 1955 (昭和 30) 具体美術協会会員となる。
真夏の太陽にいでむ野外モダンアート実験展 (芦屋公園)
―― アスファルト・ルーフィングを破りながら走り抜ける作品などを発表。
第 1 回具体美術展 (小原会館、東京)
―― 〈紙破り〉を初めて制作、〈6 ツの穴〉〈入口〉などを発表する。
この頃より、伊丹、西宮、大阪などの各幼稚園で児童画教育に終生携わる。
- 1956 (昭和 31) 第 6 回関西総合美術展覧会 (大阪市立美術館)
―― 木箱《作品 (坐って下さい)》を洋画の部に委嘱出品。
神港アンデパンダン展 (神港新聞社 3 階ホール、神戸)
―― 木箱の中に柱時計を入れた〈箱〉を出品。
野外具体美術展 (芦屋公園)
―― 《あらゆる風景》《空》を発表。
第 2 回具体美術展 (小原会館、東京) ―― 《通過》(紙破り) を行う。
- 1957 (昭和 32) 第 3 回具体美術展 (京都市美術館) ―― 画面が剥落し続ける大作の絵画を出品。
- 1958 (昭和 33) The Gutai Group Exhibition (第 6 回具体美術展)
(マーサ・ジャクソン・ギャラリー、ニューヨーク 他米国の 4 都市を巡回)
この頃より 62 年頃にかけて、烈しいストロークによる絵画作品を多数制作する。
- 1960 (昭和 35) 第 9 回具体美術展 (高島屋 3 階ホール、大阪)
- 1963 (昭和 38) 個展 (グタイピナコテカ、大阪) ―― 画面に木枠を貼り付けた絵画を複数出品。
- 1965 (昭和 39) 第 16 回具体美術展 (京王百貨店、東京)
- 1968 (昭和 42) 第 20 回具体美術展 (グタイピナコテカ、大阪)
―― カンヴァスに紙を貼り付け、縁をなぞった作品を出品。
- 1971 (昭和 46) 村上三郎「箱」個展 (モリスフォーム、大阪)
この頃、具体美術協会に対して退会届を提出するが、受理されなかった。
- 1972 (昭和 47) 具体美術協会解散 [3 月 31 日]
- 1973 (昭和 48) 村上三郎個展 (拍子木) (春秋館画廊、大阪)
村上三郎展 (無言) (無減社、大阪)
- 1974 (昭和 49) 村上三郎展 (水) (信濃橋画廊エブロン、大阪)
村上三郎展 (筋) (信濃橋画廊エブロン、大阪)
- 1975 (昭和 50) 村上三郎カキクケ個展 (清和画廊、大阪)
- 1976 (昭和 51) 村上三郎展 (床) (信濃橋画廊エブロン、大阪)
具体美術の 18 年 (大阪府民ギャラリー)
- 1977 (昭和 52) 村上三郎展「自同律の不快」(ギャルリーキタノサーカス、神戸)
- 1978 (昭和 53) 第 2 回 KAC 展 (大阪府民ギャラリー) ―― 《三位一体》を出品。
- 1986 (昭和 61) 具体―行為と絵画 (兵庫県立近代美術館 マドリッド、ペオグラードを巡回)
前衛芸術の日本 1910～1970 (ポンピドゥー・センター、パリ)
前衛の日本― 1950 年代の具体グループ (ローマ国立近代美術館)
具体・日本の前衛 1954-1965 (ダルムシュタット市立マチルデンヘーエ美術館)
具体展 I (芦屋市立美術館) ('93 年に具体展 II、III が開催される。)
甦る野外展 (芦屋公園) (「具体展 I」の関連企画。)
第 45 回ヴェネツィア・ビエンナーレ「東洋への道」
具体、其の後 (トゥルーズ国立美術学校) ―― 薄葉紙を破り抜ける《出口》を発表。
MUSIC / every sound includes music (ジープックホワイエ、神戸)
- 1994 (平成 6) 戦後日本の前衛美術 - 空へ叫び (グッゲンハイム美術館ソーホー、ニューヨーク 他)
限界を越えて (ポンピドゥー・センター、パリ) ―― 出品作品《通過》が同館のコレクションとなる。
ONE DAY MUSEUM ～観るから感じる (川西市役所) ―― 《出口》が最後のパフォーマンスとなる。
- 1996 (平成 8) 未明、自宅前で転倒し緊急入院。[1 月 6 日]
脳挫傷のため逝去。享年 70。[1 月 11 日]
村上三郎展 (芦屋市立美術館)
- 1998 (平成 10) アクション：行為がアートになるとき 1949-1979 (ロサンゼルス現代美術館 他)
- 1999 (平成 11) 具体展 (ジュ・ド・ポーム国立美術館、パリ)
- 2001 (平成 13) Le Tribù dell' Arte (ローマ近現代美術館)
- 2003 (平成 15) 村上三郎展 (ギャラリークラヌキ、大阪)
- 2004 (平成 16) 結成 50 周年記念「具体」回顧展 (兵庫県立美術館、神戸)
痕跡―戦後美術における身体と思考 (京都国立近代美術館/東京国立近代美術館)
- 2006 (平成 18) ZERO (クンストバラスト美術館、デュッセルドルフ/サン＝ティエンヌ近代美術館)
- 2007 (平成 19) Artempo: Where Time Becomes Art (バラツツォ・フォルチュニ、ヴェネツィア)
- 2009 (平成 21) 第 53 回ヴェネツィア・ビエンナーレ「世界を構築する」
- 2010 (平成 22) Gutai: Dipingere con il tempo e lo spazio (ルガーノ郡立美術館)
- 2011 (平成 23) 村上三郎―70 年代を中心に― (アートコートギャラリー、大阪)
- 2012 (平成 24) 「具体」―ニッポンの前衛 18 年の軌跡 (国立新美術館、東京)
Destroy the Picture: Painting the Void, 1949-1962 (ロサンゼルス現代美術館/シカゴ現代美術館)
TOKYO 1955-1970: 新しい前衛 (ニューヨーク近代美術館)
- 2013 (平成 25) Parallel Views (The Warehouse ラチョフスキー・コレクション、ダラス)
具体：素晴らしい遊び場所 (グッゲンハイム美術館、ニューヨーク)



《三位一体》
1978 年
45.5 x 38.0 cm (各)
油彩、カンヴァス